会員だより

チロル地方とドロミテ街道を巡る旅
～チロル地方の村々や山岳の小花編～

チロルが誇るアルプスの大自然は、現在の形となるまで長い長い年月が掛かってきた。１万数千年前を最後として、地上の気候温暖化で大氷河が少しづつ溶けて山を削り、厳しい渓谷を作り、川や沼や海となって生物の進化を遂げた。その変化が現代人へ楽しみを与えてくれている。特にチロル地帯では石灰岩を含む地質が個別的な地形と多種の植物を生み出した。また現在も岩塩坑の発掘が続いているハルシュタットでは貝殻やアンモナイト類の化石が発見され、店先に並べてある。一抱えもあるアンモナイトに向かうと抱きかかえたくなった。

今回のツアーは９月の上旬で高山植物にはちょっと遅かったようだが、ごろごろした岩陰から可愛い小花が覗いているとあ～うれしいなと感激する。小さいながらこれから来る酷寒に向け、耐え忍ぼうとする可憐さがにじみでているようだ。帰国して花の名前を調べたが分からない花が多い。間違っていれば申し訳ない。

今後の異常な温暖化が続けば自然界に取り返しの着かない変動が生じないかと心配だ。こんな心配もよそに、無事関空に着いた頃には旅のつわものどもには次の計画が頭の中で交錯しているのではなかろうか、とにかく現実に戻った一瞬でした。

記・写真：上村サト子

平和な世界へ第一歩

11月末、我が家にオーストラリアから高校卒業旅行として二人の女性が訪れました。一人は私の孫で、もう一人はオーストラリア生まれでジャンヴィと言い、ご両親ともインド出身の科学者です。本人は医者を目指しているそうです。この二人は４泊の滞在でしたが、日帰りで姫路城～広島～宮島、京都では清水寺～嵐山～金閣寺、翌日には奈良～難波、高槻では神峯山寺～ピーコックで100円ショップと美人の湯と元気よく効率的に回ってきました。若者は、スマホがあればどこにでも行けると強気です。私たちの世代の昔風なガイドは不要のようです。寸暇を見つけて、孫がお世話になった書道の村越先生宅（元清水パソコン教室生徒）に挨拶に行くと、いつもと変わらぬ暖かいお誘いで自然に書道の練習に誘われました。ジャンヴィは日本語を学校で少し学んだだけで読み書きは殆どできないというのに、書初め用の課題から「平和な国」を選びました。図らずも彼女らが訪れた広島原爆平和記念館のテーマが「平和な世界」で、そのメッセージや遺品に感銘を受けたそうです。私の孫は「伝統の継承」でした。この二題とも、これからの若い世代が担う大事な課題にしてほしいです。つたない作品の出来上がりですが、いつか平和の礎になる事を願います。

記・写真：上村サト子

四季彩

コキア（ほうき草）

コキアの草姿は円錐形やまんまる形で、爽やかな緑色から赤色に変化して面白い植物です。低い垣根のように植えている人が多いです。和名はほうき草と言われ、冬の初め、完全に赤く染まった後、色が落ち始めて刈り取って、陰干しにして、箒を作ります。よく見ると枝に一杯小さい実が付いています。箒の使い始めはこの小さい種が掃き跡に落ちて何してる事やらと思います。種子の大きい系統を栽培して、畑のキャビアとしてトンブリがとれます。（この種は丈が高く紅葉しません）

近くの畑の脇に植えられていたコキアが今年の９月の台風で傾き、色落ちた紅葉になってがっかりしていたら、会員の神田さんが真っ赤なコキアをスマホで見せてくれたのでほっとしました。春まき１年草、原産地西アジア・中央アジア

記・写真：上村サト子

ほーき草5（箒に変身）

ほーき草1

ほーき草2

ほーき草3

ほーき草4（写真神田さん提供）